

— 一般質問 (令和8年第3回中間市議会定例会)

令和8年6月18日

NO. 4

質問者	質問事項・要旨	指定答弁者
森上晋平	<p>行し、日本で最もビジネスがしやすいまちという圧倒的な都市ブランドを確立すべきと考えますが、市長の真意を伺います。</p>	市長 担当部課長
	<p>2. ふるさと納税の「抜本的刷新」による財源確保と成果の検証について 市長の示された施政方針について以下質問します。 (1) 令和7年9月定例会において、私は本市のふるさと納税における寄附額の激減を指摘し、外部委託業者のパフォーマンス不足と体制の見直しを強く提言しました。本市が断行したふるさと納税の増収策がもたらした具体的成果と今後の展望について伺います。 ア. 新体制におけるマーケティング戦略の質的転換について 旧体制の課題であった「訴求力の欠如」や「事業者開拓の停滞」に対し、新業者が導入した具体的な改善策について伺います。 イ. V字回復に向けた数値目標と進捗状況について 業者刷新後、寄附件数やリピート率、新規寄附者の獲得数にどのような変化が見られるか。令和8年度以降、かつてのピーク時に迫る増収ロードマップを明示して下さい。 ウ. 寄附金の「出口戦略」としての事業連動について ふるさと納税を単なる一般財源の補填とせず、AIバスの運行維持や子育て支援策に直結させる「共感型投資」への転換を求めるが、市長の見解を伺います。 (2) 中間市が企業版ふるさと納税を通じて、単なる寄附金の獲得にとどまらず、寄附企業のサテライトオフィス開設や地域進出などの企業誘致を積極的に推進するためには、寄附企業の経営課題と市の地域課題をマッチングさせる官民共創のプラットフォームの構築が必要と考えます。今後の企業誘致における具体的な戦略として、以下の3点について市長の所見を伺います。 ア. ターゲットの明確化と戦略的アプローチについて どのような業種・規模の企業をメインターゲットとし、どのような手法で中間市の立地優位性を売り込んでいくのか伺います。 イ. テストマーケティング拠点としての活用提案について 寄附企業に対し、市有施設や遠賀川周辺などのフィールドを、新技術の実証実験の場として提供するなど、企業にとっての事業上のメリットをどのように用意・提案していくのか伺います。 ウ. 全庁横断的な推進体制について 市役所庁内のさらなる連携強化、さらには企業対応をワンストップで行うための推進体制をどのように構築していくのか伺います。</p>	市長 担当部課長